

寺 報

No.607

平成30年3月

蓮華寺
發行

御聖訓

ひとり三徳さんとくをかねて恩おんふかき佛ほとけ
は釈迦しゃか一佛いちぶつにかぎりたてまつる。

『南條兵衛七郎殿御書』



(解 説)

仏様が具えている徳には三種類があり、日蓮大聖人はこれを主・師・親の「三徳」と説かれました。社会に於ては、どれも欠かす事が出来ない大切なものですが、現代では特にこの三つが軽んじられ、下のけじめというものがなくなりつつあります。ここで、しっかりとした主・師・親の姿勢を示さなければ、我が国の社会が崩壊されていくのではないかと懸念されます。

日蓮大聖人は他の教えと比較し、お釈迦様こそがこの三徳を体現されている仏様であるといえます。それは、法華経にこう説かれています。

この世界は全て私が救わなければならない世界であり、また治めてもいかなければならないと『主』の立場を示し、その為に『師』として平等大慧の法華経を我々に教え導き、そして「その中の衆生は悉くこれ吾が子なり」と『親』の愛情を以て我々に接してくれているからです。

ですから皆様もこの法華経を元に、お題目をもつて世の中の規範となる信仰をして欲しいと思います。

『春彼岸会』『星祭』

十八日(日)・二十一日(水)・二十四日(土)

水 行・・・昼十二時半

大本堂前

法 要・・・午後一時

大本堂

法 話・・・約十分間

番	十八日	加藤上人
当	二十一日	對馬上人
話	二十四日	住職上人



②『春彼岸会』と『星祭』の法要は三日間ですが、先祖供養は、残り四日間『朝のお勤め』の中で読み上げさせて戴きますので、ご安心下さい。
 なお、合わせて星(劍守札)もご祈祷します。

法要次第

- 一、勸請(導師が唱えます)
- 一、開經偈(無上甚深微妙の)
- 一、お経(漢字読み)

〔序品第一〜方便品第二〜如来寿量品第十六
 〔自我偈〕〜如来神力品第二十一〜觀世音菩薩普門品第二十五〜咒陀羅〕

- 一、御祈祷(法樂加持)
- 一、御妙判(如説修行鈔)
- 一、お題目(南無妙法蓮華經)
- 一、宝塔偈(此經難持)
- 一、星祭祈願(導師が唱えます)
- 一、お経(自我偈・漢字読み)
- 一、お題目(南無妙法蓮華經・僧侶は供養の読上)
- 一、彼岸回向(導師が唱えます)
- 一、四誓(衆生無辺誓願度)
- 一、お題目三唱

【法話・・・約十分間】

以上

③御祈祷のお経は速く読みますので、ご了承下さい。

お寺からのお知らせ

*先祖供養(一週間)・・・八百円

お彼岸の先祖供養は、お彼岸前に申し込みますと、一週間、またその後に申し込んだものでも、「彼岸明け」まで供養を続けさせて戴きます。
 どうか、ご供養は出来るだけ、お彼岸前日迄にお申し込み下さい。

*追膳(一週間)・・・三千五百円

お彼岸の追膳は『位牌堂』、三階『永代供養堂』、また、お預かりの『お骨』に一週間上がりします。
 「彼岸入り」以降のお申し込みも受け付けますが、期間中、一日だけという(特定の日)の受付はしておりませんので、ご了承下さい。
 また、追膳は数に限りがありますので、お早目にお申し込み下さい。

*劍守札(星)【一俵・二百円】

④星(劍守札)のお申し込みは、専用の申込書にお名前と性別・生年月日をお書きの上、お早目にお申し込み下さい。なお、宗派は問いません。

「星」(劍守札)を

申し込みましょう!

当山では『星祭』の期間中、一週間、皆様のご家族のお名前と性別・数え年を記入しました「星」(劍守札)をお祀りして、その年の善星が皆来し、悪星が退散し、一年間無事安泰でありますようにと祈願します。
 その為に、大荒行・壱百日間の修行を終えました僧侶が、十八日の彼岸の入り・二十一日の中日・二十四日の明けの三日間、水行をし心身を清めてから、ご祈祷をします。

「星」はいわゆる「日曜星」土曜星の七曜星に、太陽と月をさえぎる「羅喉星」、彗星である「計都星」を加えました「九曜星」を、皆様の年令と性別によって配当していきます。

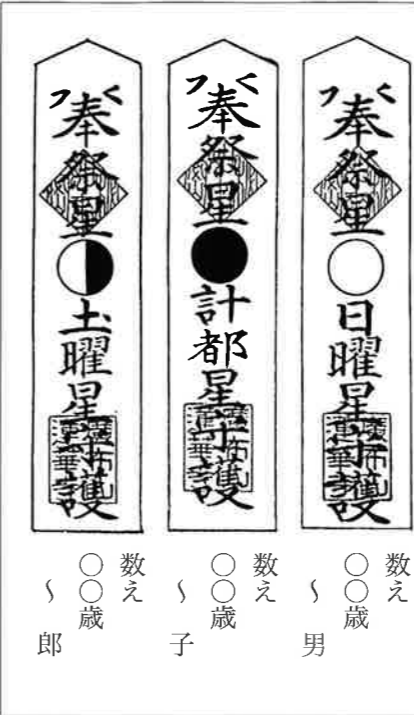
それで、我々はその年の自分の運勢を知り、これを元に行動し、更に法華経・お題目の信仰を持つ事によって、より一層安心した人生を送れるのです。

どうか、檀信徒の皆様は是非とも毎年この「星」(劍守札)をお申し込みになりますように願います。
 また、新規のお申し込みもよろしく願います。

星（劍守札）のまつり方

お寺より「星」を戴きましたら、そのままにして置かないで、必ず厚紙に貼り、各自の数え年と名前を書き、自宅の御寶前か仏壇の下の方にお祀りして、毎朝拜むようにして下さい。
また、昔より仏間のカモイに張る家庭もあります。とにかく、一年間大事にお祀りする事が大事です。

平成三十二年度星祭



※なお、五枚まで貼れる専用の台紙も、五十円で事務所にて販売しております。

三月十三日（火）

午後一時より

場所…大本堂

会繁涅槃尊釈



*お釈迦様が亡くなりになられました、しょうつき祥月命日の日です。
*十三日講のお勤めの中で、一緒に執り行います。
*お供物をお受けします。

お釈迦様の死因は？

お釈迦様は布教の途中、ある村で鍛冶屋かじやのチュンダが差し出した料理を食べて激しい下痢におそわれ、それが元で亡くなったといわれます。

ではその食べ物は何かといえますと、経典には『スーカラ・マツダヴァ』と書かれ、『スーカラ』は野ブタ、『マツダヴァ』はやわらかいと直訳され、つまり「野ブタの柔らかい肉」となります。

しかし、インドでは、当時バラモン教（今のヒンズー教）が全盛でしたから、その影響で神の使いである牛と不浄な物の代表である豚を食べる習慣はありませんでした。

それでは、お釈迦様は何を食べたのでしょうか。この経典の別の解釈には「野ブタがふんだ所に生えるキノコ」となっているものもあります。

そういえば、フランス料理で使うトリュフというキノコを捜す時、鼻のきくブタに掘らせて採っていた映像を過去に見た事があります。

ですから、この時代の事を考えれば、お釈迦様は多分キノコを食べられ、そして食あたりされたのではないかと推察されます。

靈断

檀信徒の皆様で、何か困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。
日蓮宗に伝わる秘法『九識靈断法』にて当山僧侶が解決、ご指導致します。宗旨宗派は問いません。

『位牌壇』募集中心！

*お寺に『位牌壇』がありますと、毎朝必ずお題目が唱えられますので、皆様の御先祖や仏様が今後代々に渡り守られていきます。
*御命日の時、旅行や所用などで不在でも、ご予約戴ければ『位牌壇』の前に追膳をお上げし、またお経もお上げ致します。
*青森では冬期間お墓参りが出来ませんので、『位牌壇』がありますと常にお参りが出来ます。

三月の行事

一日(木) 盛運祈願会 午後一時より

- ・お守り【霊神符】の交換の日です。
- ・自ら進んでお勤めに参加し、お経を唱えましょう。
- ・聖典(お経本)と数珠は必ずご持参下さい。
- ・蓮華寺檀信徒の方は、必ず【霊神符】をお持ち下さるようお願い致します。



二日(金) 妙見小祭 朝のお勤め中

十三日(火) 日蓮大聖人のご命日 午後一時より

- ・お経 如来神力品第二十一(訓読・日本語読み)
- 如来寿量品第十六 (真読・漢字読み)
- ・皆様も日蓮大聖人さまの御報恩を忘れずに参拝し一緒にお経・お題目を唱えましょう。

十三日(火) 釈尊涅槃会 午後一時より

十五日(木) 鬼子母神小祭 朝のお勤め中

『春彼岸会』・『星祭』【三日間】

十八日(日)・二十一日(水)・二十四日(土)

【水行】 昼〇時半より
【法要】 午後一時より

☆奉仕のお知らせ

十五日(木) 星祭の準備 男女共・午前十時より

*星祭の祭壇、水行等の準備

十八日(日)【彼岸入り】 男女共・午前十時より

二十一日(水)【彼岸中日】 男女共・午前十時より

二十四日(土)【彼岸明け】 男女共・午前十時より

⑨『春彼岸会・星祭』の行事は三日間ですので、ご奉仕とご参拝は日程・時間をお確かめの上、お願いします。

また「水行」のお手伝いは、人手が沢山必要ですので、一日でも多くご奉仕下さい。

特に二十四日(土)は星祭のお札を渡す日ですので是非ともご協力をよろしくお願いします。

⑧『お彼岸の追膳』のお手伝いは従来通り一週間、朝【午前六時〜七時半頃迄】夕【午後三時〜五時頃迄】です。お手伝い出来ます方は時間までご集合下さい。

⑨お寺のお手伝い希望の方は、教宣部員以外でも歓迎します。どうぞ時間までご集合下さい。

- ◎奉仕部長 山田兼補
- ◎伝道部長 小野正春
- ◎教宣部長 杉淵昌三

☆『永代供養塔』のご供養

境内に安置しています『永代供養塔』『水子観音像』『動物供養塔』の彼岸供養は、三月二十一日(水)の午前十時三十分より、住職上人がご回向します。ので、ご一緒に参拝出来る方は、時間までにお越し下さい。

☆今月まで、檀信徒研修会はお休みとなります。

「寒修行」終了す

本年一月五日から二月二日までの二十九日間にわたり行われました寒修行も、皆様のご協力により無事終了する事が出来ました。

毎日午後七時より一時間、お題目を中心に唱えるわけですが、もう何十年も続けている方、また初めての方など老若男女が異体同心に一心に修行している姿は、まさに「法妙なるが故に人たつとし」であり、これが日蓮大聖人の「我々の心と仏様の心が一体となる即身成仏のお姿」といえるのでしょうか。

様々の事情で、中々参加出来ないという方もいらっしゃると思いますが、どうか来年度は一回でもよろしいですから、修行をしてみてもどうでしょうか。

誰の為でもありません。自分の為、先祖の為、また将来の為なのです。

最後に、今般も法務多忙の中、寒修行の導師を交代で勤めてくれました住職上人、加藤上人、對馬上人、塙上人、加藤曉宏上人、大変ありがとうございました。また檀信徒の皆様も大変ご苦勞様でした。

はる ひ がん え 『春彼岸会』 ほし 『星まつり祭』

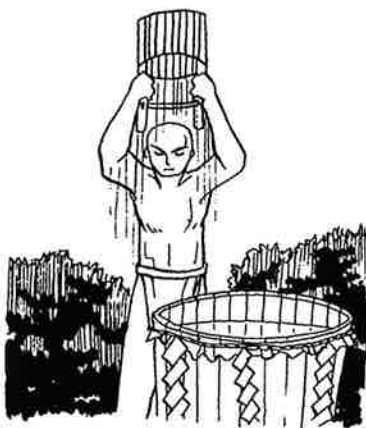
三月

十八日（日）・二十一日（水）
二十四日（土）の三日間

水 行・・・昼十二時半より 大本堂前



妙見菩薩



水行

法 要・・・午後一時より 大本堂
法 話・・・約十分間 法要終了後
(先祖供養、追膳、星【剣守札】は受付中)

* 『水行』『法要』は彼岸の入り・中日・明けの三日間ですので、檀信徒の皆様もご注意の上、ご参拝下さい。なお、ご供養は残り四日間「朝のお勤め」の中で拝みます。